

地域課題にもとづく Interprofessional Education/Work から政策への提案

- ニーズ把握と共有化のプロセスについての検討 -

畠末 憲子 (埼玉県立大学・003901)

木下 聖 (埼玉県立大学・003758)

キーワード：介護保険事業計画、地域保健医療計画、連携・協働

1. 研究目的

本研究では、2008年から2011年に地域課題もとに展開した看護・理学・作業・社会福祉の4学科と医学部学生によるインタープロフェッショナル演習(Interprofessional Education))(以下、IPEとする)が、Interprofessional Work(IPW)を進展させ、実習地域であるA県B圏域のC市の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定関与へと繋がったプロセスについて検討することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

- 1) A県B圏域における地域課題にもとづくIPE演習の3パターン(個人・集団・地域)が、ニーズ把握と多機関・多職種による共有化への効果について分析する。
- 2) 地域課題をもとに展開したIPE演習報告会とIPWの会議、地域課題の位置づけを明確化し、政策であるC市の介護保険事業計画への関与のモデル性について整理する。
- 3) 地域課題に対する市民や民生委員、専門職への啓発・共有化とB圏域へのネットワーク拡大を目指したシンポジウムのアンケート、ならびに社会福祉協議会や保健所、地域包括支援センターなどのキーパーソンへのインタビューデータより、今後の方向性や課題について検討する。

3. 倫理的配慮

IPE演習では学生や利用者、施設には事前に説明し、承諾を得てインタビュー等を実施した。報告会や報告書作成、研究発表においても、個人情報保護を遵守した。

4. 研究結果及び考察

1) ニーズ把握と共有化について

- ・個人に着目するIPE演習では、施設内の多職種連携・協働の問題に止まりやすく、そこから多機関、さらに地域ニーズへと共有化するには困難があった。
- ・民生委員や家族会などの集団から、さらに地域を対象としたIPE演習の結果を同時に共

有することにより、地域ケア会議などでは把握されていなかった地域ニーズが把握された。また、IP演習やIPWの会議・シンポジウムの準備を通じ、認識されにくかったニーズについて整理・共有化された。

2) IPE・IPWにおける地域ニーズから計画化への働きかけ

IPE・IPWは目的ではなく、利用者のニーズにもとづくケアの統合や新たなサービスを目指すために求められるアプローチである。保健医療福祉の学生による多機関でのIPEは、各実習先のIPWを進めることが示されてきたが、経年的に地域課題をテーマとして取りあげることにより、市民やケアマネジャーなどへのアンケートとは違った視点のニーズや課題が把握され、積み重ねることによる課題解決へのエネルギーと高まっていった。

3) アンケートとインタビュー結果

- ・シンポジウムのアンケートでは、当事者の発言を受けて、認知症に関わる福祉・医療の専門職等との間で現状と課題が確認された。また、支援のサービス資源を整理した資料（ガイド）を作成・提示したことにより、テーマに関する認識や要望が深まるとともに、ボランティアなどの提案がなされた。さらに、他地域からも本取組への賛同とネットワークへの参加などの要望が寄せられた。
- ・キーパーソンのインタビューより、IPEからIPWの会議におけるモチベーションが高まった要因が確認された。また、認知症から精神や知的などの認知機能に障害がある場合の地域ケアシステムへと発展させる意義と困難さが認識された。さらに、IPW会議における合意形成の課題と介護保険事業計画策定への関与について、有用な知見を得ることができた。

5. 結論及び今後の課題

・認知症高齢者の医療ニーズを中心としたIPE・IPWの取組が、ニーズ把握と共有化に意義があったことが確認された。さらに、シンポジウムを通じて、市民や行政の他関係者にも広く認識されたことにより、市町村介護保険事業計画への働きかけが可能となった。

・全国的な政策として取り組まれるであろう地域課題へのモデルとして、A県地域保健医療計画へと繋げるべく、大学が地域のコーディネーターとして関わっていきたい。

・本研究は文部科学省現代GP「保健医療福祉の専門職連携教育」(2006～2008)の成果の一部である。

・本地域でのIPEについて：新井利民・杉山明伸・佐藤進がファシリテータや地域担当などとして、関与した。

・参考文献：埼玉県立大学編『IPWを学ぶ～利用者中心の保健医療福祉連携～』中央法規、2009年